

## 平成21年度小林市共同実施報告書

小林市立小林小学校  
校長 池田辰男

連携校名（市内全小中学校）

### 1 成果

平成21年度は、子どもたちの豊かな学びをサポートするために、教員が子どもと向き合う時間を確保することや学校の創意を活かした教育活動を推進する観点から、学校情報総合管理システムの構築に向けて、以下のSSCシステムを開発・運用してきた。

#### <市内全小中学校で運用しているシステム>

##### 1 校務情報共有システム（新規開発）

本年度にICT事業所と共同開発したシステムで、地域イントラネットを活用して、行事、来校者、出張、休暇等の情報を閲覧・登録したり、行事表や学校日誌を出力したりすることができる。とともに、文書情報とリンクして、諸会議情報や報告期限情報を閲覧できる。

また、教育委員会が配信した文書は、各学校の受信簿（市教委サーバー）に登録されると同時に保存され、各学校では受付日を入力することで受付処理が完了する。

さらに、学校内で作成された文書についてもシステム上で管理して、行事情報や来校者情報とリンクすることができる。

このシステムを運用することで、ペーパーレス化と経費節減及び教職員の事務負担軽減を図ることができた。

##### 2 児童生徒情報管理システム（新規開発）

本年度にSSCで開発したシステムで、各種児童生徒名簿（名表、学級、地区、登校班、清掃班等）、指導要録、児童生徒健康診断票、全課程修了者名簿、名前シール、住所タックシール等を出力することができる。

このシステムを運用することで、個人情報の適正管理を図るとともに、学級担任等の学級事務を年間一人当約12時間削減することができた。

##### 3 こすもす科指導資料共有システム

本年度にSSCで開発したシステムで、地域イントラネットを活用して、地域の歴史や文化を学ぶ「こすもす科」の各単元で必要となる各種指導資料について、各学校で検索・閲覧・出力することができる。資料の収集・整理については、市教育研究センターを中心に行うこととしている。

このシステムを運用することで、「こすもす科」における授業効果を高めることができる。

##### 4 視聴覚教材情報共有システム

市内の小中学校が所有するビデオ等の視聴覚教材のライブラリー（現在ビデオ教材約1000本を登録）で、地域イントラネットを活用して、どの学校からでも検索（教科、タイトル等）・閲覧ができる。

また、各ビデオ教材等について、内容の要約や時間、保管場所などが記述されている。

このシステムを運用することで、各学校の視聴覚教材の有効活用及び予算執行の効率化を促進することができた。

## 5 学校支援人材情報提供システム

各学校で活用実績のある地域人材や専門的な人材の情報をSSCで集約・整理して、各学校に提供している。

このシステムを運用することで、「総合的な学習の時間」やクラブ活動及び各教科の中で必要な人材を活用することにより、教育効果をより一層高めることができた。

## 6 視聴覚機器リサイクルシステム

各学校で不具合が生じている視聴覚機器類（CD ラジカセ等）について、SSCでメンテナンスにあたっている。

本年度は、各学校で不具合が生じたCDラジカセと引き替えに、SSCで保管しているCDラジカセを貸与するなど、予算執行の効率化や資源の有効活用を図ることができた。

## 7 学校集金未納対応システム

給食費等の校納金の未収について、請求、督促等のマニュアルを作成するとともに、裁判訴訟手続きをサポートするシステムを構築している。

このシステムを運用することで、市内小中学校の未収金対応の標準化を図るとともに、裁判訴訟手続きに係る各学校の事務負担を軽減することができた。

## 8 市予算関係事務処理システム

事業型予算に対応した予算執行システムや次年度予算要求システム及び就学援助費請求を効率化するためのシステムを運用している。

このシステムを運用することで、事業型予算の円滑な推進を図るとともに、就学援助費請求に係る事務負担を軽減することができた。

## 9 出勤簿等各種帳票提供システム

市内小中学校で使用する出勤簿・休暇処理簿（職名氏名入・インデックス付）をSSC事務局で作成・出力するとともに、児童生徒指導要録や児童生徒健康診断票についても、各学校の必要枚数を配付した。

このシステムを運用することで、各学校の事務負担を軽減するとともに、約15万円の経費節減を図ることができた。

## <市内全小学校で運用しているシステム>

### 1 SSC文庫学校間回覧システム

学級単位で1セット（約30冊）にした児童図書を小学校間で毎月回覧するシステムで、本年度は、市内全小学校11校の全学年で運用している。

このシステムを運用することで、読書機会の充実と均等化及び予算執行の効率化を図ることができた。

### 2 作品募集情報提供システム

夏季休業中の作品募集情報を一覧表にして各学校へ提供するシステムで、各学校は地域イントラネットを活用して、最新の作品募集一覧を閲覧・出力することができる。

このシステムを運用することで、各小学校における教員の事務負担軽減を図ることができた。

## <小林小、三松小、須木小、鳥田町小、須木中、小林中で運用しているシステム>

### ○ 学校集金総合管理システム

給食費、教材費、校外活動費、PTA会費等の学校集金を事務室で総合的に管理している。

また、小林小と小林中では、ソフト会社と共同で開発したシステムを活用して、事務処理の効率

化を図っている。

このシステムを運用することで、学校集金の適正管理を図るとともに、学級担任等の会計事務を年間一人当約20時間削減することができた。また、保護者にとっても子どもにお金を持たせる心配がなくなるとともに、年間を見通した計画的な支出ができるようになった。

以上、昨年度に引き続き、地域イントラネットなどを活用した学校間ネットワークシステムや校務処理のサポートシステムを開発・運用することにより、学校予算の有効活用を図り、教育効果を高めるとともに、教員の事務負担軽減を図るなど、子どもたちの豊かな学びをサポートする環境がより一層整備された。

## 2 課題

市内の各学校においては、これまでに開発したシステムや今後開発するシステムを学校の規模や実態に応じて円滑に導入するために、各システムについて、教職員の共通理解を図る場を設定することやが必要である。

また、市教育委員会においては、校務処理の効率化に向けて、教職員の代表者による検討委員会等を設置することが必要である。

さらに、全県的には、SSCのシステムも含めて、県内各共同実施組織で開発・運用しているシステムを全県下で共有・管理・普及していくための市町村間のネットワークを構築する取組が必要である。

(教育委員会の意見等)